

Handed
1946

其ヨリ委員間ニ於テ協議ノ結果本案ハ此ノ儘可決
シ然ルベキ旨全會一致ヲ以テ議決シ審査報告ノ作
成ハ委員長ニ一任スルコトニ決ス
仍テ石井委員長閉會ヲ宣ス

(午後四時閉會)

日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約締結及
關係公文交換ノ件外一件第一回審査委員會

昭和十五年十一月二十日(水曜日)宮中東三ノ間
本院控室ニ於テ開會

出席者

原 議 長

審査委員長

鈴木副議長

審査委員

菅原 顧問官
 松浦 顧問官
 潮 顧問官
 林 顧問官
 深井 顧問官
 二上 顧問官
 真野 顧問官
 大島 顧問官
 小幡 顧問官
 竹越 顧問官

河合 顧問官
 石井 顧問官
 有馬 顧問官
 窪田 顧問官
 石塚 顧問官
 清水 顧問官
 南 顧問官
 奈良 顧問官
 荒木 顧問官
 松井 顧問官

閣席者

金子 顧問官
田中 顧問官
三土 顧問官

國務大臣

近衛内閣總理大臣
東條陸軍大臣
及川海軍大臣
河田大藏大臣

説明員

村瀨法制局長官
森山法制局參事官
宮内法制局參事官
柳川興亞院總務長官
鈴木興亞院政務部長
武内興亞院調査官
橋本興亞院事務官
大橋外務次官
山本外務省東亞局長

松本外務省條約局長
 太田外務書記官
 西村外務書記官
 松平外務書記官
 小川外務事務官
 相田大藏省理財局長
 櫛田大藏書記官
 武藤陸軍省軍務局長
 河村陸軍大佐
 石井陸軍中佐

岡 海軍省軍務局長
 石川海軍大佐
 藤井海軍中佐
 堀江書記官長
 諸橋書記官
 高辻書記官

(午前十時十分開會)

鈴木委員長開會ヲ宣ス本案ノ二件ヲ議題ニ供シ政

福
密
元

府當局ノ説明ヲ求ム

近衛内閣總理大臣ヨリ本案二件ノ成案ヲ得ルニ至リタル經過ニ付説明アリ外務大臣病氣闕席ニ由リ外務次官ヨリ補足的説明ヲ爲ス

陸軍大臣ヨリ今後ニ於ケル支那事變處理方針ニ付説明アリ

次デ松本條約局長本案二件ノ内容ニ付概要ノ説明ヲ爲ス

河合顧問官ヨリ種々質問アリ即チ

(一) 政府ガ特命全權大使ヲ南京ニ特派シタルヨリ

茲ニ成案ヲ得ルニ至リタル迄相當ノ期間ヲ費

シタル理由如何トノ質問ニ關シテハ鈴木興亞

院政務部長ヨリ本案ノ成立ニ相當期間ノ經

過ヲ要シタルハ新政府ノ實體ヲ究メ重慶政

權ノ全面的屈伏ヲ慮リタル爲メナル旨

(二) 條約第七條ニ治外法權ノ撤廢租界ノ還付ニ

規定アルモ其ノ具體的方法ニ付何等ノ取極ナキ理

由如何トノ質問ニ對シテハ松本條約局長ヨリ今回

ノ條約締結ノ最大ノ意義ハ新政府ノ承認ニ在

リ從ツテ條約ニハ斯カル見地ニ於テ必要ナル基本

的條項ノミヲ掲グルコトトシ治外法權ノ撤廢租界ノ還付等ニ付テノ前後措置ニ關スル具體的取極ノ如キハ之ヲ將來ノ協定ニ俟ツベキ旨

(三) 新政府ノ保有スル兵力ニ付何等ノ制限的規定ナキ理由如何トノ質問ニ對シテハ東條陸軍大臣ヨリ本案ノ條約ハ特殊ノ事態ニ於ケル取極ニシテ今後ニ於ケル事態ノ變化ハ明瞭ナラザルヲ以テ茲ニハ基本的條項ノミヲ掲ゲ其ノ他ニ付テハ別箇ニ之ヲ協定スベク當面ノ事態ニ付テ考フレバ新政府ノ保有スル兵力(現在約八萬八千)ハ寧

口育成増強セラルルコトヲ希望スル旨

(四) 附屬議定書第四條ノ日本國臣民ノ蒙リタル損害補償及中華民國難民ノ救濟ノ内容如何トノ質問ニ對シテハ河田大藏大臣ヨリ附屬協定第四條第一項ハ帝國臣民ノ權利利益ノ損害ヲ補償セシムルモ戰費ノ賠償ヲ求ムルモノニ非ザル旨及支那難民ノ救濟ハ固ヨリ國民政府之ヲ行ヒ帝國政府ハ之ニ便宜ヲ供與セントスルモノニシテ之ニ依リ國庫ニ負擔ヲ來スモノニハ非ザル旨夫々答辯アリ

石井顧問官ハ重慶政權ニ對スル帝國政府ノ方針ヲ
 問ヒ對重慶工作ハ蔣介石ヲシテ帝國ノ情勢ヲ不利
 ニ判斷セシメ却ツテ彼ノ乘ズル所トナルベキ惧アル
 コトヲ指摘シタルニ對シ東條陸軍大臣ヨリ昭和十三
 年一月十六日ノ政府聲明ヨリ同年十一月三日ノ聲明ニ
 至ル經過ヲ述べ最近ノ御前會議ニ於テ議決セラレ
 タル事變處理要綱ニ基キ對重慶工作ヲ進ムベキ
 旨之ガ效果ニ付テハ種々ノ觀察アラシモ三國同盟
 條約等ノ效果ヲ利用シ茲ニ途ナキニ非ザル旨ノ
 答辯アリ

有馬顧問官ヨリ新政權承認後汪蔣合作成ルトスル
 モ汪ハ從來ノ出所進退ニ節操ヲ欠キ支那人ノ間ニ
 信用乏シク蔣ハ英雄的存在トシテ今ニ信用ヲ博シツ
 ツアルニ鑑ミ再ビ蔣ノ天下トナリ竟ニ帝國ノ聖戦目
 的ヲ達成スルニ至ラザルヲ惧ル旨ヲ述べ當局ノ所見
 ヲ求メタルニ對シ東條陸軍大臣ヨリ帝國政府ハ新
 政權ヲ育成強化セントスルモノニシテ蔣ガ從來ノ考
 ヲ棄テ其ノ實體ヲ變ヘ帝國ノ企圖スル東亞ニ新
 秩序ヲ建設スルノ理想ニ奉リ投ズルニ由リ汪蔣合
 作ガ成ルモノナル旨ヲ述べ

休憩（正午—午後一時半）

窪田顧問官ヨリ本案ノ條約及關係公文中華疆及華北ニ關スル取極ハ直ニ此ノ兩者ヲ羈束スルモノナルカ等ニ付質問アリ鈴木興亞院政務部長及松本條約局長ヨリ交換公文（甲）第二ノニニ規定セララル所ニシテ新中央政權成立ニ至レル經過及蒙古聯合自治政府及華北政務委員會成立ノ當初ヨリスル日本側トノ關係ニ照シ條約ノ履行ニ付何等懸念ナカルベキ旨特ニ東條陸軍大臣ヨリ此ノ點ニ付テハ日本軍ノ駐屯ヲ考慮ニ入ルベキ旨等ノ答辯アリ

石塚顧問官ヨリ種々質問アリ即チ

- （一）事變處理ノ今後ノ見透ニ付テハ東條陸軍大臣ヨリ新政府ハ未ダ實力ヲ具有セザルモ帝國ハ銳意之ヲ育成シ漸次其ノ政治力ヲ各方面ニ滲透セシムベク重慶政權ハ飽ク迄モ之ガ屈服ヲ圖ルベキ旨

- （二）條約中ノ防共原則ニ對スル政府ノ見解如何トノ質問ニ付テハ近衛内閣總理大臣ヨリ今次事變ガ聖戰タルノ意義ハ防共ニ於テ最モ明確ナルベク日ソ關係ノ如何ニ拘ハラズ防共ハ飽

ク迄之ヲ堅持スベキ決意ヲ有スル旨

(三) 新政府承認後ニ於ケル興亞院ノ地位如何トノ
 質問ニ付テハ東條陸軍大臣ヨリ新政府承認
 後ハ日華間ニ外交關係ヲ生ズベク此ノ點ニ於
 ケル興亞院ノ關係ハ在支諸機關ノ整理ト共
 ニ目下考慮シツツアル旨夫々答辯アリ

清水顧問官ヨリ(一) 新政府ニ於ケル汪精衛ノ地位(二)
 重慶政府トノ和平ノ形式ニ付質問アリ(一)ニ付テハ
 柳川興亞院總務長官ヨリ新政府ハ國民政府還都
 ノ形式ヲ以テ之ヲ組織シ林森ヲ主席トシ特別

ノ規程ヲ設ケテ其ノ不在中代理ヲ置クコトヲ得ル
 モノト定メ行政院長タル汪精衛ガ主席代理ノ任ニア
 ル旨(二)ニ付テハ東條陸軍大臣ヨリ重慶政府ニ對ス
 ル和平交渉ハ常ニ汪蔣合作ヲ建前トスル旨夫々答
 辯アリ

南顧問官ヨリ外務次官ヲ通ジテ閣席中ノ松岡外
 務大臣ニ對シ質問事項ヲ提出シ明日ノ委員會ニ
 於テ之ガ答辯ヲ求ム

奈良顧問官ヨリ本條約ノ締結ニ依リ齎サルベキ效
 果ヲ問ヒ併セテ重慶政府ガ遂ニ新政府ニ合作シ來

ラストセバ茲ニ支那ハ二分セラレ新政府承認後ニ於テハ重慶政府ハ之ヲ叛亂政府ト目スベク之ニ對シ討伐ヲ永續スルニ付テハ疑アル旨ヲ述ベタルニ對シ東條陸軍大臣ヨリ本條約ハ日華關係ノ基本原則ヲ定メタルモノニシテ戰果ノ取得ヲ規定シタルモノトハ異ナル旨及現實ノ事態トシテ對立關係ノ存在ヲ否定シ得ザルモ帝國ハ新政府ヲ中華民國政府トシテ認メ此ノ見地ヨリ諸般ノ施策ヲ講スベキ旨ヲ答フ

荒木顧問官ハ條約第四條ノ規定ニ基ク日本軍隊ノ

駐屯ニ要スル經費ノ分擔ニ付質問シ河田大藏大臣ヨリ直接ニ經費ヲ分擔セシムルコトナキモ附屬祕密協定第二條第二項ニ依リ中華民國ヲシテ日本軍ノ駐屯ニ必要ナル諸般ノ便宜ヲ供與スルコトヲ約セシメ間接ニ相當ノ負擔ヲ負ハシムル旨ノ答辯アリ

菅原顧問官ヨリ(一)新政府ノ財政力(二)蔣政權ノ經濟力等ニ付質問アリ(一)ニ付テハ鈴木興亞院政務部長ヨリ新政府ノ財源ハ殆ンド揚子江下流地帯ニ於ケル稅收入(珠ニ海關稅統稅塩稅)ニ依存シ其ノ總額本年度ニ於テ一億四千餘萬元ナリ歲出ハ一億七千餘萬

元ヲ計上ス本年九月迄ノ經過ハ歲出豫定額ニ達セズ三千萬元ノ餘カラ存シタル旨今後ニ於テハ新政府ノ政治力ノ滲透ニ伴ヒ民心ノ把握ニ努メ基礎財源タル稅收入ノ増加ヲ圖ルベキ旨(二)ニ付テハ東條陸軍大臣ヨリ我が封鎖強化及後蔣ルートノ閉鎖ハ蔣ヲシテ愈々窮乏ニ追ヒ込ミ物資ノ不足及需給ノ不圓滑ハ重慶ヲシテ經濟的危機ニ頻セシメツツアリ但ダ食料ハ自給自足ニ大ナル困難ナシ財政ハ重慶側ノ發表スル所ニ依レバ事變勃發前ニ於テハ歲入十二億元ニ止マリシガ一九三八年三十八億元トナリ

内軍事費ハ二十五億元ナリ之ガ財源トシテ稅收入ハ關稅塩稅統稅ノ三種ヲ主トスルモ何レモ主要地點ヲ我軍ニ占據セラレテ從前ニ比シ著減ニ増稅又ハ新稅創設ハ之ニ多額ヲ期シ難ク華僑送金ハ年一億元程度ニシテ國內金銀ノ蒐集ハ最早實績擧ガラズ結局公債發行ニ俟テ其ノ發行額ハ事變勃發以來三十二億元ニ達スルモ消化率ハ五〇%内外ニ過ギズ對外借款ハ比較的效果ヲ擧ゲツツアルモ稅收入ノ減ヲ掩フニ足ラザル旨夫々説明アリ

終ニ石井顧問官ヨリ外務次官ヲ通ジテ閣席中ノ松

岡外務大臣ニ對シ質問事項ヲ提出シ明日ノ委員會
ニ於テ之ガ答辯ヲ求ム
右終テ鈴木委員長ハ本日ノ會議ハ之迄トシ次回ノ
委員會ハ明日午前十時ヨリ之ヲ開ク旨ヲ述べ閉
會ヲ宣ス

(午後四時十五分閉會)

日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約締結及
關係公文交換ノ件外一件第二回審查委員會

昭和十五年十一月二十日(木曜日)宮中東三ノ間
本院控室ニ於テ開會

出席者

原 議 長

審查委員長

鈴木副議長

審查委員

菅原	松浦	潮	林	深井	二上	真野	大島	小幡	竹越
顧問官	顧問官	顧問官	顧問官	顧問官	顧問官	顧問官	顧問官	顧問官	顧問官

河合	石井	有馬	窪田	石塚	清水	南	奈良	荒木	松井
顧問官	顧問官	顧問官	顧問官	顧問官	顧問官	顧問官	顧問官	顧問官	顧問官

長
密
完

關席者

金子顧問官

田中顧問官

三土顧問官

國務大臣

東條陸軍大臣

松岡外務大臣

河田大藏大臣

及川海軍大臣

説明員

村瀨法制局長官

森山法制局參事官

宮内法制局參事官

柳川興亞院總務長官

鈴木興亞院政務部長

武内興亞院調査官

橋本興亞院事務官

山本外務省東亞局長

松本外務省條約局長

太田外務書記官
 西村外務書記官
 松平外務書記官
 小川外務事務官
 相田大藏省理財局長
 榑田大藏書記官
 石井陸軍中佐
 岡海軍省軍務局長
 石川海軍大佐
 藤井海軍中佐

堀江書記官長
 諸橋書記官
 高辻書記官

(午前十時十分開會)

鈴木委員長開會ヲ宣ス

松岡外務大臣ヨリ前日ノ委員會ニ於テ南、石井兩
 顧問官ヨリ提出セラレタル質問事項ニ付答辯アリ
 即チ

南顧問官ヨリ提出セラレタル質問中(一)曩ニ日獨
 伊三國條約締結ト同時ニ日ソ間ニ協定ヲ結ブ
 コトナカリシハ獨ガ日ソ間ヲ斡旋ストノ言ニ信賴
 シタルガ爲メナリトノコトナリシガ果シテ然ラバ
 先般行ハレタルモロトフ、リップペントロップ會談ニ際シ
 當然日ソ問題ガソノ議題ノ一ナリシナランガ事
 實ハ如何トノ質問ニ對シテハ去月三十日建川大使
 限リノ提案トシテ獨ト聯絡ヲトリタル上モロトフ
 ニ不可侵條約ヲ提示シタル處先般モロトフノ獨
 逸訪問ニ當リベルリン到着前既ニリップペントロッ

フハ我來極大使ト聯絡セル等日ソ國交調整ニ關
 シ獨ハ相當盡カシツツアル旨
 (二)日ソ交渉ノ經過ニ關シ外間洩レ聞ク所ニ依リ建
 川大使ヨリ不可侵條約ヲ提示シタル所モロトフハ之
 ニ對シ日本ノ提供スルモノハ如何トノ反問アリタリト
 ノコトナルガ果シテ然ルカトノ質問ニ對シテハ大體
 質問通りナルモ今之ニ立入ツテ説明スルヲ避ケル旨
 (三)英米ト重慶トノ關係如何トノ質問ニ對シテハ未
 ダ真相トシテ説明スル程ノ根據ヲ有セザルモ英米
 ガ蔣ト軍事同盟ヲ結ブガ如キコトナカルベキ旨

(四) 英米ト泰國トノ關係如何トノ質問ニ對シテハ目下探索シツツアルモ泰國ト英米兩國間ニ軍事同盟ヲ結ブガ如キコトナカルベキ旨

(五) ソ聯ト重慶トノ關係如何トノ質問ニ對シテハ日ソノ調整ハ或程度進ムトスルモソノ對蔣援助ノ停止ハ之ヲ期待シ得ザル旨右ニ拘ラス大局上ノ見地ヨリ日ソ調整ハ進捗セラルベキ旨

石井顧問官ヨリ爲サセタル三國條約締結後獨ノ我ニ齎シタル利益如何トノ質問ニ對シテハ三國條約締結以後獨ハ日本ノ國防強化ニ資センガ爲メ我ニ對

シ便宜ヲ取計ラヒツツアルノミナラス支那問題及日ソ國交調整ニ付好意的意見ヲ述べ且其ノ行動ヲ取り來レリ即チ支那問題ノ解決ニ關シ從來我國ハ獨ニ多クヲ期待セザリシガ本月五日我が和平條件ノ蔣ニ提示セラレタル後獨ノリソペントロップ及スターマーハ夫々駐獨支那大使ニ和平ヲ勸告シタリ此ノコトアリタル後重慶ノ接近ヲ見經過概シテ順潮ナルハ一ニハ右ノ效果トモ信ゼラル但ニ從來支那ヲ對手トシタル經驗ニ照シ今後如何ニ推移スルカハ疑問ナリ又歐洲ニ於テ諸國外相等ノ活躍セルコトニ關

シテハ獨ヨリ情報ヲ受ケツツアリ獨ゾ會談ハ獨伊
トソ聯及日ソノ國交調整問題が主題ニシテ殊ニ
モトコフツベルリンニ招キタルハバルカン工作ヲソニ
諒解セシムルニ在リ獨ガバルカンニ工作シテ之ヲ
自己ノ國內ニ取り込マントスル目的ハ一應ハ英國ニ
向ケラルルモ又ソ聯ニ對スルモノトモ觀察セラレ
故ニ獨ハソ聯ニ對シ極メテデリケートナル立場ニ
在リ日ソノ國交調整ニ付テモ最モ利用スベキハソ
聯ニ對スル獨ノ與フル脅威ナリ從ツテ獨ノバル
カン工作ノ成功ハ日本ニトツテ有利ナルベキ旨夫

々答辯アリ

次デ南顧問官ヨリ種々質問アリ即チ

(一)條約締結後ニ於ケル重慶政權ノ地位如何トノ
質問ニ對シテハ松本外務省條約局長ヨリ帝國ニ關
スル限り中華民國ノ地方政權ニ過キザル旨

(二)條約中ノ「全般的平和克復」ノ意義如何トノ質問
ニ對シテハ松岡外務大臣ヨリ今後ノ發展ニ於テ
決セラルベク我方ニ於テハ全カヲ擧ゲテ新政府ヲ
援ケ事實上ノ中央政府トスルニ努メ但ダ將來内
政上ノ問題トシテ蔣ガ新政府ニ合流シ事實上ノ

結果ヲ認ムルガ如ク仕向ケントスル旨

(三) 形式的ニハ新政權ニ地方政權ガ合流スルコトニナ
ランモ事實上ハ強カナルモノニ合流スルノ結果ヲ生
ズベク此ノ際ニハ汪ヲ對手トシテ締結スル本條約ガ
影響ヲ受クルコトナキカトノ質問ニ對シテハ松岡外
務大臣ヨリ今後日本ノ決意ト國際情勢ノ推移ニ
由ツテハ蔣政權ハ弱化スベク今後若シ蔣強カニシ
テ汪蔣ノ合作成リタルトキハ其ノトキノ環境ニ從
ヒ條約ハ多少變更ヲ受クルコトアラシモ其ノ變更
ノ程度ハサシテ大ナラザルベシ何トナレバ現ニ蔣ニ

對シ私案トシテ提示シ既ニ略々同意ヲ得タル條件
ハ形式ニ於テ異ナルモ實質ニ於テハ本條約ノ内容
トサシテ變ラザルガ故ナル旨

(四) 三國同盟條約ニハ「大東亞」トアルニ本條約ニハ單ニ
「東亞」トアリ兩者ノ區別如何トノ質問ニ對シテハ松
本條約局長ヨリ沿革上ノ理由ヨリ區別ヲ生ジタル
モ兩者同義ニ解シ然ルベキ旨

(五) 條約第二條中「兩國政府ハ文化ノ融合ニ付協力
スベシ」トノ意義如何トノ質問ニ對シテハ鈴木興亞
院政務部長ヨリ日滿華ハ東亞ノ樞軸ヲ爲スモ

之が核心ハ日本ニシテ其ノ文化ヲ他ニ融合セシムルヲ本條ノ主眼トスル旨

(六) 條約第三條中日本軍ノ駐屯ハ所要期間中ト制限セラレタル事由如何トノ質問ニ對シテハ東條陸軍大臣ヨリ新政府側ノ要求ニ基ヅキ永久駐屯ニ非ザルコトヲ明ニセンガ爲ニシテ情況ニ由リテハ無期限ニ駐屯シ得ル旨

(七) 附屬議定書第三條中日本軍ノ撤兵ノ完了ヲ治安確立ト共ニ二年以内トアル二年ノ起算點ハ如何トノ質問ニ對シテハ松本外務省條約局長ヨ

リ本條ハ日華間ノ交渉中最モ困難ナリレモノニシテ特ニ議事録ニ之ガ解釋ヲ明ニシタリ即チ治安ノ確立ニ至ル迄ニ日本軍ガ撤去ヲ完了シ得ザルコトハ無論ナルガ治安確立スルモ之ト同時ニ即時日本軍ノ撤去ヲ完了スルハ實際上不可能ニシテ之ニハ相當ノ時日ヲ要スベキモ之ガ期間ヲ二年以内ニ限定シタル趣旨ナル旨、東條陸軍大臣ヨリ軍トシテハ全般的平和克復シ戦争状態終了ニ撤兵ヲ開始スルモ其ノ終期ハ治安確立後二年以内ト解スル旨

休憩（正午—午後一時半）

(八) 海南島ニ付テハ國民一般ニ特殊ノ希望ヲ持テ居ル所條約上我國ガ之ニ占メ得ル地位如何トノ質問ニ對シテハ松岡外務大臣ヨリ支那人ハ一般ニ面子論者ナルガ故ニ支那ニハ之ヲ主タル區域トシテ一省ヲ設ケシメ日本ノ之ニ對スル把握ヲ確實ナラシメントスル旨

(九) 支那事變勃發以來我國ガ之ニ費シタル國費如何トノ質問ニ對シテハ河田大藏大臣ヨリ昭和十六年三月迄ノ軍事費トシテ豫算額總計百六十四億

五千五百萬圓ニ達スル旨夫々答辯アリ

菅原顧問官ヨリ政府ハ新條約ノ締結ハ十一月末迄ニ之ヲ行ハントシ從ツテ新政府ノ承認ハ十一月中ニ行ハレントスルニ拘ハラズ重慶政權ニ對スル和平工作ハ十ニ月中之ヲ繼續スル趣ナルガ如キモ此ノ間ニ一月ノ期間ヲ設ケタル理由如何トノ質問アリ之ニ對シ松岡外務大臣ヨリ南京政府ノ承認ハ諸般ノ情勢上速カナルヲ要スルニ付之ヲ十一月末迄ニ行ハントス尤モ對重慶工作ニシテ近ク成ルノ見込五タバ或ハ若干期間調印ヲ延期スルヤモ知レズ此ノ間ノ餘裕トシテ一

月ノ期間ヲ採リタル旨尚和平工作ハ本年末ヲ過ギルモ依然繼續スルモノニシテ新政府ニ於テモ之ヲ諒解シ居ル旨、東條陸軍大臣ヨリ重慶政府ヲ屈服セシメ之ヲ新政府ニ合流セシメントスル點ニ於テハ終始一貫セル旨ノ答辯アリ

松浦顧問官ハ十一月十三日ノ決定ニカカル新支那事變處理要綱ニ依レバ和平條件ハ新條約ニ準據ストアルノ意義如何ヲ問ヒタルニ對シ松岡外務大臣ヨリ和平條件ハ形式上ニ於テ可成リ讓歩スルモノアリトスルモ實質上ハ本條約ニ準據スト云フ程度ニ於テ定ム

ベキ旨ノ答辯アリ

潮顧問官ヨリ對重慶工作ハ今年内ニ成果ヲ見ルノ見込アリヤ否ヤ等ニ付質問アリタルニ對シ松岡外務大臣ハ不明ト云フノ外ナキモ望ミナキニハ非ザル旨等ノ答辯アリ

林顧問官ハ條約ノ署名者及其ノ權限等ニ付説明ヲ求メ松本外務省條約局長ヨリ中華民國ノ組織法ニ依レバ條約締結權ハ國民政府ニ在リ現實ノ條約署名ニハ目下行政院長ニシテ國民政府主席不在中主席代理ノ任ニ在リ近ク國民政府主席ニ就任ノ豫定ナルヲ汪

精衛之ニ當ルベキ旨等ノ答辯アリ同顧問官ハ尚條約第七條中日本側ニ付テハ治外法權ノ撤廢及租界ノ還付ニ付支那側ニ付テハ日本國臣民ノ居住營業ノ自由ニ付規定セラルル所之等ハ相互的ナルカ否カラ問ヒタルニ對シ松岡外務大臣ハ主義上ハ相互的ナルモ事實上ハ兩者ノ實現ニ多少ノ時間的隔リアルベキ旨ヲ答フ深井顧問官ヨリ(一)重慶政府ガ幸ニシテ今月中和平工作ニ應ジ来リタルトキ蔣ノ地位及汪トノ關係如何(二)支那ノ經濟建設ニ付テノ政府ノ方針如何(三)支那ニ於ケル外國及外國人ノ權益ニ付テノ方針如何

1072
何トノ質問アリ之ニ對シ松岡外務大臣ヨリ(一)ニ付テハ蔣ガ和平工作ニ應ジ来ルトスルモ新政府部内ノ重要ナル地位ヲ占ムルハ我が欲スル所ニ非ズ恐ラクハ重慶屈服ノ曉ハ蔣ニシテ下野セザルコトナカルベキ旨(二)ニ付テハ帝國ハ永キ將來ニ亘リ大東亞圈ニ於テ政治的指導權ヲ握ルト共ニ經濟關係ニ於テハ優越ナル地位ヲ利シ利益ヲ專斷スルヲ避ケ平等感ヲ以テ相互ニ利益ヲ獲ルニ努メントス但シ内外ノ情勢ニ由リテハ此ノ理想ニ必ズシモ膠着スルコトナキ旨(三)ニ付テハ諸外國ガ支那ヲ植民地トシテ搾取スルヲ認メ

ズ此ノ點ニ於テ將來ニ於テモ摩擦ヲ生ズルノ惧アル
ベキ旨ノ答辯アリ

二上顧問官ヨリ本件條約ノ締結ニ關スル手續ニ併
行シ重慶政府ニ對シ和平工作中トノコトナルガ萬一
速カニ之が成果ヲ得タリトセバ別ニ新條約案が成
立シ本案ハ廢案トナルカトノ質問アリタルニ對シ松
岡外務大臣ハ本月末ニ至リ近々重慶トノ和平成立
ノ見込立チタルトキハ本條約ハ之が署名ヲ延期シ場
合ニ由ツテハ之が調印ヲ中止スルコトモアルベキ旨ヲ
答ヘタルモ東條陸軍大臣休憩ヲ求メ休憩中(午後

三時三十分―同四十分)政府側ニ於テ協議ノ結果
更ニ松岡外務大臣ヨリ本案ノ二件ハ重慶政府ニ
對スル和平工作ノ成否如何ニ拘ハラズ審議ヲ求メ
タルモノニシテ將來必要ニ際シテハ其ノ節政府ニ
於テ必要ナル手續ヲ爲スベキ旨ノ答辯アリ回顧
問官ハ尚(一)本件成立後重慶政府トノ交渉ノ結果
本件條約ヲ廢シ南京政府ノ主班タル汪ヲ下野セシ
ムルガ如キコトアルカ(二)重慶政府トノ和平條件ニ付
準據ストセラルル基本條約ノ範圍ニ付質問アリタル
ニ對シ(一)ニ付テハ松岡外務大臣ヨリ目下ノ所考ヘ

得ザル旨(二)ニ付テハ東條陸軍大臣ヨリ基本條約及之ニ附帶スル總テノ取極ニ準據スル謂ナル旨ノ答辯アリ

眞野顧問官ヨリ(一)條約第六條第二項ニ日華兩國緊密ニ協力シテ開發スルコトヲ約スル特定資源ノ種類如何(二)新政府ニ於テ日本人以外ノ外國人ヲ顧問トシテ招聘スルコトハ許サルベキカトノ質問アリ(一)ニ付テハ鈴木興亞院政務部長ヨリ目下日華合辦ヲ以テ經營シツツアル企業ノ種類ヲ述べ(二)ニ付テハ松本條約局長ヨリ新政府ハ日本人顧問及職員ヲ招

聘採用スル義務ヲ負フ旨ノ答辯アリ

大島顧問官ハ將來長期大持久ノ新事態ニ處シテハ支那軍隊ヲ利用スルヲ要スベク之ガ條文上ノ根據ヲ求メタルニ對シ鈴木興亞院政務部長ヨリ治安保持上ノ協力ニ關シ條約第四條、蒙疆及華北ニ於ケル防共及治安協力ニ關シ秘密交換公文(甲)戰爭行爲ノ目的完遂ノ爲メノ協力ニ付秘密交換公文(乙)ヲ存スル旨ノ答辯アリ

終ニ小幡顧問官ヨリ種々質問アリ即ケ

(一)本案諸取極ノ内容ハ過去三歳ニ亘リ甚大ナル犧

牲ト莫大ナル戦費ヲ拂ヒタル大事業ノ結末ヲ告
 グル條件トシテ果シテ相應シキヤ否ハ當然論議
 セラルベキ問題ニシテ之ガ論斷ハ後世ニ俟ツベキ
 モ本條約ノ内容ヲ通容スル通覽スルニ何レモ支那
 ノ人心ヲ把握セザル限リ到底之ヲ遂行シ得サ
 ルモノナリ大正四年ノ日支條約(所謂二十一箇條
 條約)ノ經驗ニ徴シ如何ニ條約ニ大鼓判ヲ押スモ
 先方ニ之ヲ履行スルノ誠意ナキ限リ空文ニ終
 ルノ懼レアリ此ノ點ニ關シ政府當局ノ見解如何
 及今後ノ方針如何トノ質問ニ對シテハ松岡外務

大臣ヨリ支那民心ノ把握ハ條約實施上ノ根本要
 件ナルモ事容易ニ非ザルベク之ガ爲メニハ多大ノ
 決心ヲ必要トシ一面ニ於テ實カラ示スト共ニ他面ニ
 於テハ民衆ニ對シ我が真意ヲ理解セシムルニ努
 メ尚廣ク外交上ニ於テモ失墜シタル國際的信用
 ヲ回復スルニ努カスベキ旨、東條陸軍大臣ヨリ
 大東亞建設ニ對シ日滿支ノ楔ガ打込マレタル點滿
 洲ヲ含ミ我が國防ノ一大基根ヲ把握シタル點及
 將來支那ニ對シ指導的地位ニ立テ得ベキ點ハ充分
 ナル戦果ト認メラルベキ旨

(二) 從來對支國策動モスレバ動搖シタリシガ今後政府ハ國家ノ體面上ヨリスルモ新政府ノ育成ニ專念シ之ヲ強化シ以テ相對的ニ蔣政權ノ弱化ヲ圖ルベキ旨ヲ述ベ政府ノ所見ヲ求メ且新政府ニ對スル諸外國ノ承認ニ付見込ヲ問ヒタルニ對シ松岡外務大臣ヨリ條約調印後ニ於テハ新政府ヲ育成強化スルニ邁進シ唯ダ重慶工作ハ二義的ニ之ヲ繼續シ飽ク迄モ之ガ屈服ヲ圖ル旨、新政府ノ承認ニ付テハ獨、伊、羅、洪、西等ノ諸國期待セララル旨

(三) 新政府ノ勢力範圍及其ノ地域内ノ治安狀況如

何トノ質問ニ對シテハ鈴木興亞院政務部長ヨリ新政府ノ勢力範圍ハ實質上日本軍ノ占據地域ニシテ其ノ治安狀況ハ主要交通線ニ付テハ概ネ良好ナルモ之ヨリ離レタル地ハ治安未ダ完全ナラズ人民ハ新政府ニ對シ概ネ不即不離ノ態度ヲ示シ未ダ民心把握ノ域ニ達セザルモ政治力ノ滲透ニ伴ヒ逐次治安ハ良好ニ至ルベキ旨

(四) 破壊狀態ノ復興ニ付テノ方策如何トノ質問ニ對シテハ河田大藏大臣ヨリ資金ノ調達ハ概シテ圓滑ナルモ資材ノ配給ハ困難ニシテ爲メニ復興ノ進捗顯

著ナラズ日滿支ヲ通ジテ解決策ヲ講ズベキ旨
 (五) 日本軍ノ駐屯ニ伴フ軍票ノ發行額及之ガ始
 末如何トノ質問ニ對シテハ河田大藏大臣ヨリ十一月
 十五日現在ノ軍票發行額ハ一億五百万圓ニシテ之ガ
 吸收ニ付テハ未ダ確定シタル具體案ナキ旨尚中聯
 券十月現在ニ於テ六億二千三百万圓ノ發行アリ
 此ノ幾分カハ軍費ニ使用セラレ居ル旨夫々答辯ア
 リ
 右終テ鈴木委員長ハ質問終了ト認メ國務大臣及說
 明ノ退席ヲ求ム

(國務大臣及説明員退席)
 其ヨリ委員間ノ協議ニ入り各員ヨリ意見ノ開陳ア
 リ結局本案ノ二件ハ條約ノ實施ニ際シ之ガ成果ヲ
 收ムルニ遺憾ナカラシムルト共ニ中華民國民心ノ把
 握ニ最善ノ努力ヲ拂フベキ旨ノ希望事項ト共ニ
 可決セラレ然ルベキ旨全會一致ヲ以テ議決ス
 仍テ鈴木委員長ハ閉會ヲ宣ス

(午後六時三十分閉會)

9

情報局官制外四件第一回審査委員會

昭和十五年十一月十四日(木曜日)本院事務
所ニ於テ開會

出席者

原 議長

鈴木副議長

審査委員長

石井顧問官

審査委員